



“輝け! ひぐみっ子” だより

学校ホームページは
こちら



公式Instagram
Higusta★はこちら



横浜市立東汲沢小学校
校長 渡辺 誠

校長 渡辺 誠

「苦手だけど好きなこと」はありますか

風薫る季節となりました。先日、体育館で2年生がフラフープを使った学習をしていました。「校長先生、見てください!こんなに回せるようになりました!」ひぐみっ子は本当によく話しかけてくれます。

そんな中、ある子が恥ずかしそうに教えてくれました。「うまくできないけど、フラフープが好きです。」わけを聞くと、「だって昨日よりうまくなったから。」——なんて、すてきな言葉でしょう。できる・できないではなく、「前よりできた自分」を感じられていることが伝わってきました。

同じ週の4月23日(木)、6年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。6年生に感想を聞くと、「国語の問題で考えさせられた」という声が聞かれました。問題を見てみると、作家の辻村深月さんの「『苦手』と『嫌い』」という文章が取り上げられていて、「あなたなら、文章を読んで考えたことを、どのようにまとめますか。自分の経験と結び付けて書くこと。」といった内容でした。確かに手ごたえのある問題です。

辻村深月さんは、運動が嫌いだと思っていたけれど、実は「苦手なだけで、好きだった」ことに大人になってから気付いた経験をもとに文章を書いています。人には向き不向きがあり、苦手なことがあっても、自分のペースや方法なら楽しめることがある。すべてをひとくくりにして遠ざけてしまうのは、もったいない。「苦手な嫌い」と思ってしまう前に、ぜひ一度立ち止まって考えてほしい——そんなメッセージが込められていました。

(辻村深月『あなたの言葉を』(2024年4月毎日新聞出版)収録「『苦手』と『嫌い』」より趣旨を紹介)

この文章を読み、私にも思い当たることがありました。小学校4年生からバスケットボールのチームに入りましたが、私は一度もレギュラーにはなれず、試合に出ることもありませんでした。決して得意とは言えません。それでも、一日も休まずに練習に参加していました。今思えば、それは「好き」だったからです。なぜなら、入らなかったシュートが、ある日入るようになった——そんな小さな成長が、うれしかったからです。

次にあの子に会ったら、ぜひ伝えたいと思います。「堂々と『好き』って言っているんだよ」と。自分の「好き」を自分の言葉で語れる力は、これからの人生を支える大切な力です。一人ひとりにある「苦手だけど好き」「まだ上手じゃないけれど続けたい」という思いを、大切にできる学校でありたい。そんなことを、あらためて感じる五月のはじまりです。